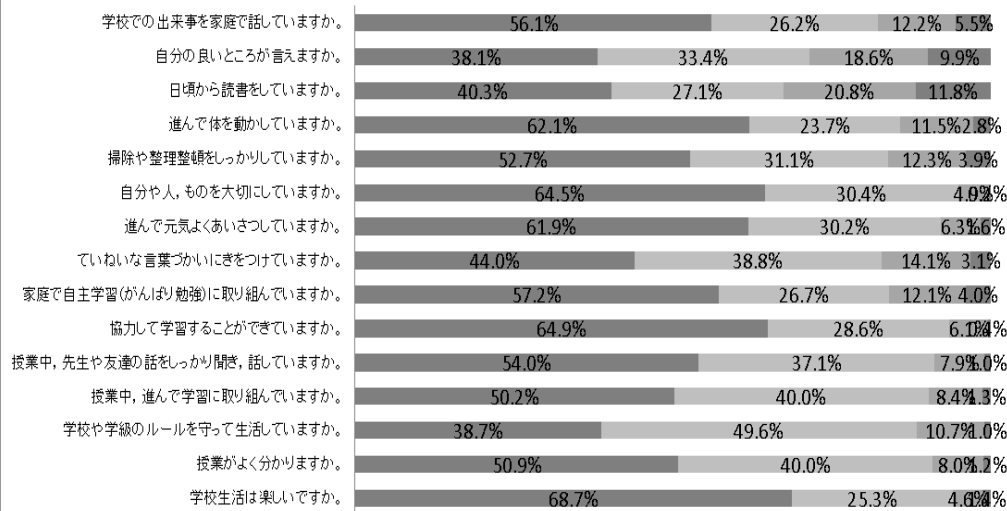


春なお浅く、朝夕はまだまだ冷え込みが厳しい今日この頃ですが、皆様には日頃より本校教育にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。第2回教育アンケートの結果をお知らせします。

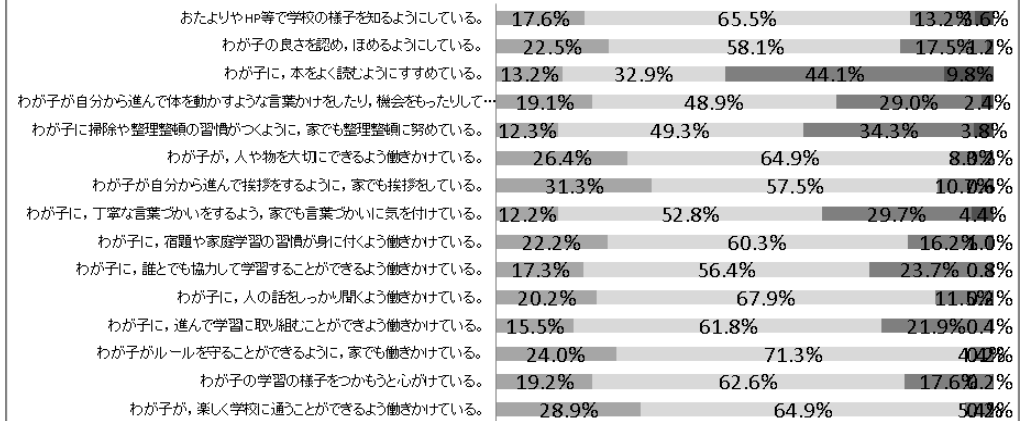
令和元年度 第2回教育アンケート(児童版)

■よく出来ている ■大体出来ている ■あまり出来ていない ■出来ていない



令和元年度 第2回教育アンケート(保護者)

■よく出来ている ■大体出来ている ■あまり出来ていない ■出来ていない



かぎりなくやさしい子

「自分の良いところと言えますか。」という問いに対して「いえる」という子どもの答えが少し増えました。「よくできている」と「大体できている」を分けてみると「よくできている」と答えた子どもは38.1%。これは前回のアンケート時と比べるとおよそ2倍の数値です。保護者の方のアンケートを見てみると「わが子の良さを認め、ほめるようにしている。」という問いに対して「できている」という答えが前回と比べ33.3%も上がっており、このことが大きく関わっていると考えられます。忙しい毎日の中で、子どもの気になることや注意したいことが目立ってしまいがちですが、私たち大人が意識して子どもたちの良いところ・頑張ったところを認めたり褒めたりすることで、子どもたちが自信をもって前向きに取り組むことができるようになります。また子どもたちの困りも保護者の皆様と共有し、引き続き手を携えて、子どもたちの成長を温かく見守りたいと考えています。

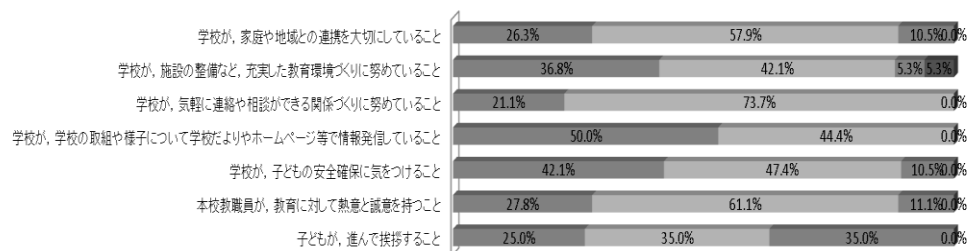
「ていねいな言葉づかいに気を付けていますか。」という問いに関しては残念な結果となりました。子ども・保護者・教職員共に「できている」という答えが下がっています。気持ちを許し、なんでも話することができる関係性が重要ではありますが、人権を大切にしたい言葉の選び方はもとより、社会で通用する丁寧な表現によるコミュニケーションの仕方には普段から慣れ親しんでいくことが必要であると考えます。相手のことを大切に思うからこそ、丁寧な言葉遣いで話すことができるよう、教職員も意識していこうと考えます。

すすんで勉強する子

子どもたちは授業中進んで学習に取り組んでいます。(90.2%) 家庭学習においても、第1回と同じくらいの子どもたちが「できている」と答えました。これから必要とされるのは、自分で時間を管理し、目標に向かって何をどのように学習していくのかをマネジメントしていく力と言われます。予定表を活用し、家庭での学習が習慣化しているのか目を向けていただき、今後も子どもたちの家庭学習を支えていただくことが大切と考えます。また読書については、「できている」という答えが第1回アンケート結果より約10%減ってしまいました。ですが内容を見てみると、「よくできている」という答えが15.4%増えています。本をよく読む子とあまり読まない子の二極化がうかがえます。読書習慣により、内容や行間を読み取る力が向上するだけでなく、思考力・想像力を養うことができます。学校では「朝読書」の時間を設定したり学校司書や図書委員会を中心とした取組をしたりして読書に親しむ機会があります。ご家庭でも一緒に読書を行うなど、ご家庭でもぜひ読書に向かう時間をつくっていただければと思います。

令和元年度 第2回教育アンケート(地域)

■よく出来ている ■大体出来ている ■あまり出来ていない ■出来ていない



だれとでもつながる子

児童アンケート「学校での出来事を家庭で話していますか。」という問いに対して「できている」という答えが前回より約10%、保護者アンケート「おたよりやHP等で学校の様子を知るようにしている」という問いに関して「できている」という答えが44%増えました。保護者の皆様が学校の様子について知ろうとしてくださっていること、子どもたちの話を聞こうとされていることがうかがえます。今後も「学ぶ・知る楽しさ」「人と関わる楽しさ」を子どもたちが味わい、子どもたちがさらに「学校でのことを話したい」と思うことができるような教育活動を創造していきたいと考えます。

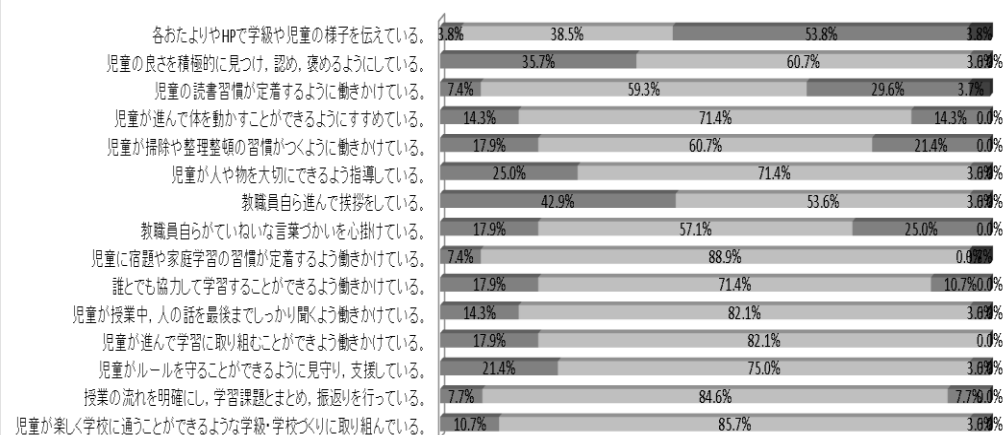
挨拶については、92.1%の子どもたちが、進んで元気に挨拶をすることが「できている」と答えました。学校では委員会の子どもたちによる取組もあり、概ね元気な挨拶ができています。しかし残念ながら地域の中では、進んで挨拶をすることが難しい子もいるようです。地域の方には登下校の見守りをはじめ、様々な取組のなかで関わっていただいています。地域の中で育っている子どもたち。顔を覚えて、挨拶をし合って、様々な人とつながってほしいです。挨拶は人間関係づくりの第一歩。子どもたちがより良い人間関係を培い、豊かな人生を歩んでいくことができるよう、引き続き意識していこうと思います。

しなやかで元気な子

暖冬が影響していたのかもしれませんが、「進んで体を動かしていますか」という問いへ「できている」と答えた子どもは85.8%で、前回より増えています。学校でも休み時間になると、元気に運動場で遊ぶ子どもたちを見ることができます。引き続き積極的に体を動かす機会を大切にできるよう、ご家庭でも働きかけていただければと思います。また、多くの人（友だち）と関わりながら体を動かして遊ぶ中で、「自分の思うようにいかないことにどう対処するか」「仲良く遊ぶための友だちとの関わり方」などの社会性を学ぶこともできます。体を動かすことは体力向上のためだけでなく、心の成長にもつながるということも踏まえ、積極的に働きかけていただければと思います。

令和元年度 第2回教育アンケート(教職員)

■よく出来ている ■大体出来ている ■あまり出来ていない ■出来ていない



まとめ

地域の皆様には日頃から、「子どもたちのために」と、登下校の見守り活動をはじめ、様々な場面で子どもたちと接し、子どもたちの健全な育ちの一翼を担っていただいています。12月に行った「地域ふれあい学習」では、多くの地域の方々にお世話になりました。「だれとでもつながる子」のところで述べましたが、子どもたちは地域の中で生活しています。お互いに顔を覚え、挨拶し合い声をかけ合い、様々な人とつながりながら生きていってほしいと願っています。今後も繋がりを大切にし、子どもたちの育ちを促して参りたいと思います。

今回のアンケートでは、残念ながら前回比で下がったものもありますが全体的にみると向上しています。保護者アンケートで意識が変わったものが、子どもたちの意識向上へつながったとみられるものもあります。「人やものを大切にすること」「進んで体を動かすこと」「自分の良いところが言えること」「学校での出来事を家庭で話すこと」などがそうです。

またアンケートの自由記述欄に、「このアンケートを行ったことで、自分の子どもへの関わり方をふり返ることができた」と記述してくださった方が数名おられました。このアンケートは児童・保護者・教職員の質問項目を統一し、児童が感じていることと、保護者の皆様や教職員の働きかけの繋がりを見ることができるようになっています。「出来ている・出来ていない」を判断するというものではなく、私たち大人の働きかけによって、子どもたちをより良く導いていくためのふり返しとして活用していきます。今回の結果を踏まえ、教職員一同も学校教育全体を見直し、良い方向性を見出していくことができるよう、力を合わせてより一層の努力をしていきたいと考えています。保護者の皆様、地域の皆様には引き続きご理解とご協力をいただきますようよろしくお願いします。

すべては藤、森の
子どものために